

林 野 庁
北海道森林管理局
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

平成 20 年 度 年 報

平成21年3月31日発行



アオダモ
頂芽が騎兵隊さんの帽子



オニグルミ
葉痕が猿や羊のお顔



ニガキ
冬芽と葉痕でピエロのお顔



カツラ
仮頂芽がカニの爪かシカの蹄

この1年を振り返って

(所長 中島 章文)

今年度から、自然再生事業や森林環境教育を実施する国有林内で、森林総合研究所北海道支所の研究者の方のご指導を受けながら、自動撮影装置による中・大型野生動物の撮影調査を始めました。これまで、どちらかといえば樹木に向いていた職員の意識が、この調査を行うことを通して、森林内の哺乳類や鳥類にまで広がってきています。また、2010年（平成22年）10月には名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されることになっており、今後、生物多様性保全への国民的関心がますます高まることが予想されます。生物多様性は人類の生存を支え、人類に様々な恵みをもたらしてくれます。私たち森林を管理する側も、森林を構成する生態系全体に目を向け、注意を払っていかねばなりません。以下に、私どもの20年度の取組を年報としてとりまとめました。ご覧いただき、ご意見等いただければ幸いです。

自然再生への取り組み

【自動撮影装置による野生動物生息調査】

1. 目的

当センターでは、雷別地区自然再生事業の一環として、エゾシカ及び哺乳類の生息状況を把握するため、冬期間に雷別地区国有林において自動撮影装置による撮影調査を行っています。また、パイロットフォレスト（以下PF）では中大型哺乳類の生息状況と長期的動向を把握するため、夏期に撮影調査を行っています。

2. 取組みの経過及び調査箇所

雷別地区国有林は、釧路湿原のシラルト口流域の最上流部に位置し、林齢70年を超えるトドマツ人工林があります。

（調査箇所位置図）



この人工林が平成12年に気象害に遭い、128ヘクタールに及ぶ立ち枯れ被害が発生しました。このため、笹地となった箇所を森林へ再生するため、釧路湿原自然再生協議会の協議を経て再生事業の一環として、平成19年から雷別地区自然再生事業を行っています。

雷別地区における冬期の自動撮影調査は、自然再生事業に先行して、平成17年度に冬期哺乳類調査として4箇所の定点で実施、平成18年度からは同年設置した試行実験区内に2箇所の定点を設け

実施、平成20年12月からは定点を10箇所を増設しました。

また、PFは釧路市の北東約50キロメートル、厚岸湖に注ぎ込む別寒辺牛川の中流域に位置し、厚岸町と標茶町にまたがる約1万ヘクタールの森林です。度重なる林野火災により荒廃した原野を、昭和31年から10年かけてカラマツを主体とした森林に造成した箇所です。本年度から「北海道哺乳類観測ネットワーク構想（仮称）」による全道的な野生動物生息調査活動へ参画するとともに、「平成20年度パイロットフォレスト森林環境教育基礎調査」のうち、中大型哺乳類の生息に関する調査に資することを目的として実施しました。調査に当たっては11箇所に定点を設置しました。

3. 調査方法

自動撮影に使用した機材は、森林総合研究所北海道支所が開発した自動撮影装置Yooyshot及びSENECOM全天候型自動撮影装置SE-5DVの2種類です。双方とも赤外線受動式で、設置したカメラの前を恒温動物が通過する事によりシャッターが作動し撮影を行います。設置方法はYooyshotの場合、



（Yooyshot）



（SE-5DV）

設置高1.5メートル、俯角37度で、エゾシマリス以上の大きさの動物をターゲットにするよう調整されており、SE-5DVの設置もこれに準拠しました。設置に当たっては林道網、支線、作業道、廃道など

に面した人の出入りの少ない場所で、けもの道等のフィールドサインや周囲の状

況に留意して定点を決定しました。

4. 撮影結果と今後の課題

撮影結果については下表のとおりです。

表 - 1 撮影された種 (単位:枚数)

期間・場所	使用機材	食肉目										雑蹄目		兎目		齧歯目		その他	
		ヒグマ	エゾタヌキ	キタキツネ	ノネコ	エゾクロテン	ホンドイタチ	ミンク	エゾシカ	エゾユキウサギ	エゾリス	エゾシマリス	エゾモモンガ	ネズミ類	野生動物外 (雑犬)	鳥類	不明		
H18/02/07~03/08 雷別地区	Yoyshot 4台		1	3		1	1					2							
H18/11/03~12/10 雷別地区	Yoyshot 2台			3					25										
H19/02/01~03/02 雷別地区	Yoyshot 2台										1								
H19/12/5~翌1/7 雷別地区	Yoyshot 2台								5	1									
H20/01/31~2/28 雷別地区	Yoyshot 2台					1			2										
H20/7/8~8/1 PF	Yoyshot 7/8~7/22 2台 7/23~8/1 6台 SE-5DV 5台	2	3				1	1	15			1						2	
H20/10/14~10/28 PF	Yoyshot 6台 SE-5DV 5台		6	21	4	1			36			35	48	1	15		1		
H20/12/3~12/24 雷別地区	Yoyshot 5台 SE-5DV 5台	1	8		2				7			1					2		
	Yoyshot 5台 SE-5DV 5台		2	2			1		4		1			8		3	1		
			2		1				9					2	1				



(エゾシカ・雷別)



(エゾクロテン・雷別)

撮影技術の向上を目指して、撮影結果の安定を図りたいと思います。

また、エゾシカの生息数増大が懸念されること、アライグマの生息域の拡大を監視すること、今回の調査ではまだ撮影されていない種が有ることなどから、引

き続き調査を行う必要があると考えています。

調査結果については、釧路湿原周辺及



(ヒグマ・PF)



(エゾモモンガ・PF)

びPFにおける野生動物の生息状況を示すものであり、広報、ホームページへの掲載、森林環境教育への活用等、各種の機会を通じて一般市民への発信を行いたいと考えています。

森林環境教育への取り組み

【学校林を活用した環境教育の取組事例】

1. 経緯

当センターでは、標茶町の雷別地区で行っている自然再生事業に多くの市民に関わってもらいたいと考え、事業箇所周辺の森林、河川、湿地などを活用して、地域住民に森林について考え、学んでもらう機会として、自然再生学習会の開催などを行っています。



この取組の一つに、平成18年から実施してきた標茶町立中茶安別小中学校の学校林を活用した環境教育があります。この学校は、雷別事業地に近く、当センターで自然再生事業地を森林環境教育に活用できないものかと検討していた時期に、学校から学校林活動支援の要請があり、これをきっかけに雷別事業地の見学等を取り入れた、学校林を活用した森林環境教育を実践しています。

2. 中茶安別小学校の学校林



学校林は、学校から徒歩で20分ほど離れたところにあります。この学校林は、先生と地域の方々が一緒になって維持・管理が行われており、環境教育の場として恵まれた状況にあります。トドマツ、カラマツ等の植栽樹種の外、広葉樹の種類も多く、歩道やトイレ等の施設もあります。総合学習の時間を利用して、全学年を対象に

学校林は、学校から徒歩で20分ほど離れたところにあります。この学校林は、先生と地域

の方々が一緒になって維持・管理が行われており、環境教育の場として恵まれた状況にあります。トドマツ、カラマツ等の植栽樹種の外、広葉樹の種類も多く、歩道やトイレ等の施設もあります。総合学習の時間を利用して、全学年を対象に



通して学校林を利用しています。

毎年3回、半日単位で学校林活動を実施しています。また、クラス毎にも必要に応じて年間を

3. ふれあいセンターが行った学校林での活動



18年度には、学校林で、小学1年生から4年生には樹木観察や葉っぱのスケッチを行い、小学5年生から中学生には測樹の後、樹木の炭素貯蔵量を算出してもらいました。その後、全員で気象害で立ち

枯れたトドマツ人工林がある雷別自然再生事業地を見学してもらいました。さらに、近くの天然林を見学してもらい、これから再生する森林のイメージを持ってもらいました。

19年度には、学校林で、小学1年生～4年生には樹木観察と森林の働きについ



での紙芝居を行い、小学5年生～中学生には樹木観察と森林土壌の仕組みと役割について観察



(移植作業の体験)

を行いました。その後全員で、芽が出たばかりの小さな雷別産ハルニレ苗をコンテナ苗育成用のトレイに移植しました。この苗木は3年間ほど学校で預かって育てていただき、雷別事業地に里帰りする予定です。



(花炭焼きを体験)



(子ども樹木博士に挑戦)



(歩道の測量体験)

20年度には、まず学校で、木が豊かに生えた森林と木があまり生えていない森林が描かれた2枚の絵を比較して、その違いを子ども達に発表してもらいました。次に学校林に移動して、小学1年生～4

年生にはルーペでの葉っぱの観察や花炭焼き体験を行い、小学5年生～6年生には樹木観察・子供樹木博士を行いました。また、中学生は、ポケットコンパスを使い学校林の歩道

測量を行いました。

中茶安別小中学校の学校林活動に3年間参加させていただいていますが、子ども達が学校林活動を本当に楽しんでいることと、学校がこの学校林活動を大事に守りながら、環境学習に役立っていることを知ることができました。

4. 学校林活動への支援

釧路支庁管内の学校林の現状について、

(社)国土緑化推進機構が行った「平成18年度全国学校林現況調査」では、釧路支庁管内の134学校の内、学校林を所有している学校数は、小中学校合わせて15校です。そのうち、平成17～18年頃に学校林を環境教育等に活用していた学校は、当センターが取り組んでいる中茶安別小中学校を含め4校でした。

学校林活動を行っている4校にお話を伺うと、

ア) 限られた学習時間の中で、環境学習の実施に限界を感じていること。

イ) 利用条件の良い学校林を持ちながら、地域家庭数・生徒数の減少から、学校林を維持・管理する先生や地域の方々の負担の増加があること。

ウ) 自然豊かな学校林である一方、熊の出没、スズメバチに対する警戒等の安全面に気をもんでいること。

など学校林活用の苦労や問題点がありました。



(PFの木道)

ふれあいセンターでは今後、要請に応じて学校林活動の支援を行うとともに、学校



(PFの望楼)

林では実施できないメニューについては、雷別自然再生事業地やパイロットフォレストなど森林環境教育の場として整備している国有林のフィールドを活用し、森林が自然環境に

与える役割や人々が木々を育て利用する営みについて、子供達に学ぶ機会を与えていきたいと考えています。

この1年間の取り組み

協議会：釧路湿原自然再生協議会
雷別事業：雷別地区自然再生事業

自然再生の取組

4月24日 協議会第13回再生普及行動計画ワーキンググループ出席

5月19日 協議会第11回再生普及小委員会出席

5月24日 雷別ドングリ倶楽部活動（春



の樹木・草花調査)を実施

雷別ドングリ倶楽部の今年度初めての活動を実施しました。

雷別事業地の試行実験区に植栽した広葉樹苗木の成長観察と事業地近くの植物・樹木の観察をしました。雷別での自然再生事業に参加する市民活動を支える「縁の下の力持ち」になってもらうためにも、倶楽部には色々な取組を取り入れて活動してもらいたいと考えています。

5月29日 協議会20年度第1回事務局会議出席

6月3～9月20日 雷別事業地で自然再生



事業事前モニタリング調査を実施

雷別事業地では、事業の実施に伴うモニタリ

ングを、「森林再生の主目的である森林の再生状況と森林再生に伴う自然環境及び水土保全機能の変化について行う。」こととしています。今回、鳥類・歩行性甲虫について調査を実施しました。今後は森林の生長・推移や植生の変化など固定プロットを設定しての調査も実施する予定です。

6月12～17日 雷別事業地で「試行実験区植生調査（春期）」実施

6月13～7月8日 雷別事業地で「試行実験区種子落下量調査（春期）」実施

6月21日 雷別自然再生学習会（春期）の開催

7月4日 協議会第8回森林再生小委員会出席



釧路湿原自然再生協議会は、釧路湿原の自然再生を推進するため平成15年

に設立された組織で、多様な主体によって構成されています。当日の森林再生小委員会では、午前の室内討議で、雷別事業における平成19年度実施結果及び平成20年度事業予定、モニタリング指針（案）作成について報告を行いました。午後からは現地検討が行われ、活発な意見交換がなされました。

7月9日 雷別ドングリ倶楽部活動（コンテナ苗育成用のトレイに幼苗移植）を実施

7月26～8月4日 協議会「自然再生事業パネル展」に雷別事業地のパネル出品

7月30日 雷別ドングリ倶楽部活動（コンテナ苗育成用のトレイに幼苗移植と炭材採取）を実施

8月1～11月28日 雷別事業地で試行実験区の種子落下量調査（秋期）実施

8月4日 協議会第3回環境教育ワーキンググループ出席

8月10日 協議会ワンダグリーンダフィールドワークショップ出席



協議会の再生普及小委員会主催によるフィー

ルドワークショップが開催され、また、オプション企画として当ふれあいセンターが実施している雷別事業地の現地見学会が行



われました。

フィールドワークショップは、釧路湿原自然再生普及行動計画の具体的な取組みであるワンダグリンダ・プロジェクトの参加者を対象として、参加者に釧路湿原の「今」



を知り、湿原で起きている変化等を見ていただくことをねらいに、今年度から実施することになったもので、その第1回目として開催されました。雷別事業地では、事業の概要説明と市民参加の具体的な取組状況について説明。また、育成ポットへのハルニレ苗の移植作業とシカ食害防護チューブの設置作業を体験してもらいました。

9月2日 協議会20年度第2回事務局会議出席

9月13日 雷別ドングリ倶楽部活動(地拵作業と広葉樹種子豊凶調査)を実施

9月17日 酪農学園大学雷別事業地現地視察案内

9月29日 協議会事務局課・所長等会議出席

10月8～12月1日 雷別事業地でエゾシカライトセンサス調査を実施

10月11日 雷別自然再生学習会(秋期)の開催



雷別事業地で参加者を一般公募して毎年春と秋に学習会を実施しています。

今回は参加者16名が広葉樹の植樹、タネ採取・タネ播き、遊歩道の樹名板整備に



汗を流しました。参加者からは、「これからは、是非参加したい。」、「苗木の育成のお手伝い

をしたい。」など嬉しい声をかけていただきました。これからも雷別事業のPRを一層図っていきたくと考えています。

10月15～16日 雷別事業地で「試行実験区植生調査(秋期)」実施

10月22日 雷別ドングリ倶楽部活動(エゾシカ食害防護柵の設置と広葉樹の播種)を実施

10月22日 協議会主催の報道関係者現地説明会に出席

10月31日～ 雷別事業地外2箇所での土壌凍結調査を実施

11月18日 協議会20年度第3回事務局会議出席

11月21日 協議会第14回再生普及行動計画ワーキンググループ出席

11月25日 協議会第4回環境教育ワーキンググループ出席

11月29日 雷別ドングリ倶楽部活動(炭焼きと花炭、除伐作業の体験)を実施

12月6日 釧路教育大雷別自然再生事業



地視察案内

北海道教育大学釧路校の先生と学生5名が雷別地区自然再生事業地を訪れま

した。学生達は釧路湿原の自然再生事業に触れることを通して環境学習を指導するための基礎を学んでいます。当日は、雷別のトドマツ立ち枯れ跡地、天然更新等の実験箇所、シカ食害防護チューブ設置箇所など

を1時間半ほどかけて見て回りました。今年度は、京都大学、酪農学園大学の学生も雷別事業地の視察に訪れてくれました。

12月7日 協議会再生普及行動計画ワーキンググループフィールドワークショップ参加

12月16日 協議会第14回釧路湿原自然再生協議会出席

1月15日 協議会20年度第4回事務局会議出席

2月6日 協議会第12回再生普及小委員会出席

2月10日 酪農学園大学「自然再生と市民参加」についての聞き取り調査への対応

2月21日 雷別ドングリ倶楽部活動(冬芽の学習会)を実施

3月14日 協議会釧路湿原自然再生シンポジウム出席

年間を通じての取組



「お庭で苗木育成の参加者募集」
雷別事業の取組の一つに、雷別の広葉樹のタネから芽を出した苗木を、市民の方に自宅の庭で育ててもらう取組を実施しています。雷別ドングリ倶楽部の活動や雷別自然再生学習会でタネを採取したり幼苗を移植したコンテナ苗木が、多くの市民の皆さんの庭で大きくなり雷別事業地に里帰りしてくれることを願っています。平成22年度から5年間かけて植栽を計画していることから、できるだけ早くこの取組を定着し広めていきたいと思っています。

森林環境教育の取組

4月17～5月26日 管内市町村校長会で



森林環境教育支援のPR

当センターの森林環境教育の支援活動は、春の小中学校校長

会訪問から始まります。年度当初、管内各市町村の校長会を訪問し、各学校からの要請により森林環境教育の支援を実施していることを説明しています。今年度も森林環境教育の意義と支援内容を理解いただくとともに、取り組み校獲得に向け、釧路町を皮切りに、弟子屈町・厚岸町・白糠町の校長会訪問をしました。

5月3,4日 釧路市こども遊学館でのイベントに参加して木工教室等を実施

6月10日 森林教室の実施(釧路町立知方学小学校)

7月4日 標茶教育研究所理科部会研修を実施



標茶町内の教職員13名による理科部会の研修が、雷別事業地と中茶安別小

中学校の学校林で行われました。雷別事業地の概要や市民参加の取組について説明するとともに森林環境教育への活用についても紹介しました。中茶安別小中学校の学校林では、学校林を活用して取り組んでいる総合学習の中で、当センターが支援している森林教室の内容について紹介して意見交換を行いました。

7月6日 釧路市こども遊学館イベントに協力して子ども達をパイロットフォレストに案内

7月28日 森林ふれあい講座の実施

釧路管内から5名の先生を招き、森林ふれあい講座をパイロットフォレストで開催



しました。この講座は、先生方に森林を活用した環境学習に取り組んでもらうことを目的に、燃料炭と花炭の作り方、カミネッコンの組立て方と苗木の植え方、森林や樹木の観察方法など

を実際に体験してもらうとともに、ふれあいセンターの役割や取組内容を紹介しました。今後、森林環境教育への取組校が増えることを期待しています。

7月31日 森林教室の実施(釧路短大附属幼稚園)

8月5日 京都大学食料・環境経済学科の実習支援

8月26日 森林教室の実施(標茶町立中茶安別小中学校)

8月28日 森林教室の実施(厚岸町立高知小中学校)

9月30～1月30日 パイロットフォレスト



森林環境教育基礎調査の実施
パイロットフォレストにおける生物多様性に関する情報を収集・整理し、パイロットフォレストでの森林とふれあうための多様なメニュー作りなどソフト面の充実と、併せてパイロットフォレストの2008年における森林の現況を明らかにすることを目的として調査を実施しました。基礎調査の実施項目は森林調査、哺乳動物類調査、文献調査を行いました。

集・整理し、パイロットフォレストでの森林とふれあうための多様なメニュー作りなどソフト面の充実と、併せてパイロットフォレストの2008年における森林の現況を明らかにすることを目的として調査を実施しました。基礎調査の実施項目は森林調査、哺乳動物類調査、文献調査を行いました。

9月17～11月20日 パイロットフォレスト遊歩道整備(チップ敷設等)の実施

9月9日 京都大学森林科学科の実習支援

10月9,24,30日 森林教室の実施(釧路市立青陵中学校)

10月23日 森林教室の実施(別海町立上西春別小学校)



別海町立上西春別小学校の5年生を対象にカラマツの炭や花炭作りを行いました。当小学校では、砂鉄から鉄を作り出す授業を予定していることから、その燃料作りの一環として、カラマツの炭作りを計画、今回の炭作りの実施となりました。土に穴を掘って炭を作る方法の炭窯でしたが、日頃、火を燃やす事のない生徒達には、火を燃やすこと自体がいろんな意味で学習になったと思います。

11月3日 青少年のための科学の祭典釧路大会に出席して「紙すきと押し葉のはがき作り」等を実施

11月21日 釧路市立青葉小学校生徒5年生2名職場訪問対応

2月24～3月13日 パイロットフォレスト歩道用樹木説明の案内板作成

3月2日 森林教室の実施(釧路市立青葉小学校)

3月16～19日 卒業記念木工作品制作指導(白糠町立茶路小中学校)



茶路小中学校では、小学6年生の卒業記念として子ども達自ら



が木工作品作り
に取り組みまし
た。センターは
白糠町からの依
頼を受け、カラ
マツ間伐材を利

用した丸太イスのデザインから制作までお手伝いしました。子ども達は、慣れない手つきでノコやノミを使い、最後にヤスリで磨き上げて立派な卒業記念作品を仕上げました。子ども達の真剣な仕事ぶりは、在校生達の心にもきっと届いて、この丸太イスを大事に使ってくれることでしょう。

NPO等・その他の取組

4月16日 道主催の「北海道森づくり研究成果発表会」で森林環境教育の取組を紹介

5月8日 講演会「外国産哺乳類の侵入状況と在来動物とのかかわり」出席

5月20日 森林認証フォーラム出席

5月25日 北海道植樹祭でふれあいセンターの取組をパネル展示

6月2日 センター広報紙「インフォメーション」第16号の発行

6月4日 根釧西部署との合同で「パイロットフォレストでの植樹・森林浴体験と雷別事業地見学」を開催

6月5日 釧路市主催「環がまち釧路」で自然再生パネル展示及びパンフ等配布

6月7,8日 くしろエコフェア2008 実行委員会主催のイベントに参加



環境月間に合わせて市民団体が開催した「くしろエコフェア

2008」にセンターも参加して、雷別事業をパネルとパンフレットで紹介し自然再生事



業への市民参加
を呼びかけまし
た。また、森林
と環境との関わり
について考え
てもらふミニ森

林教室「森からのクイズ」を開きました。クイズの後、カンナくずを利用した「鉛筆立て」などの木工教室を実施し、たくさん子どもたちや親子連れの参加があり、市民の方々に森林の重要性などをアピールできた環境月間となりました。

6月30日 根釧西部署との合同で「20年度第1回国有林四季体験ツアー」を開催

7月1日 センター広報紙「インフォメーション」第17号の発行

7月8～8月1日 野生動物自動撮影の実施

7月16日 森林生態系会議出席

8月1日 センター広報紙「インフォメーション」第18号の発行

8月6,7日 道東地域林政連絡調整会議に出席してセンターの取組状況説明

9月1日 センター広報紙「インフォメーション」第19号の発行

9月7日(釧路町),9月13日(白糠町),9月



23日(鶴居村)の産業祭に出席

釧路近隣の町村で行われる産業祭に根釧西部森林管理署と合同で参加しました。

森林管理署は木工品販売、センターは自然再生事業のパネル展示及び樹木名当てクイズを行いました。

このような町村のイベントには今後も積極的に参加し、木の良さをPRしたり、樹木や森林に少しでも関心を持ってもらえるよう内容を工夫しながら続けていきたいと思ひます。

9月17,18日 森林管理署等職員を対象としたGIS研修会への参加

10月1日 センター広報紙「インフォメーション」第20号の発行

10月7日 根釧西部署との合同で「20年度第2回国有林四季体験ツアー」を開催

10月10日 厚岸町環境講演会に出席

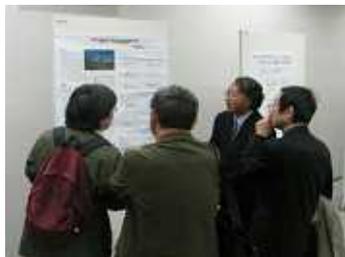
10月14～28日 野生動物自動撮影の実施

10月19日 白糠町主催の「庶路ダムウォーク」に根釧西部署との合同で出席して「樹木当てクイズ」等を実施

10月25日 「道民森づくりネットワークの集い」に参加してセンターの取組紹介

11月1日 センター広報紙「インフォメーション」第21号の発行

11月10日 日本森林学会北海道支部大会



に参加してポスター発表

「標茶町雷別地区外2箇所における土壌凍結の実態(平成19～20年の調査結果から)」と題してポスター発表を行いました。このポスター発表では、高齢級トドマツ人工林の枯損被害を引き起こした要因の一つである冬期の土壌凍結の実態について取りまとめて発表しました。発表を聞いた先生方からは、「測定当日の天候・湿度等を記載するとよい。」、「解け方の特徴を教えてください。」等のアドバイスや質問がありました。当センターでは、来年度以降もこのような機会を利用して、積極的に取組の成果を発表していきたいと考えています。

11月20日 エコツーリズム推進法道東地区説明会出席

12月2日 局主催の低コスト作業システム現地検討会出席

12月3～12月24日 野生動物自動撮影の

実施



12月5日 センター広報紙「インフォメーション」第22号の発行

1月6日 センター広報紙「インフォメーション」第23号の発行

1月15日 帯広地区市町村長有志協議会出席

1月29,30日 局主催の「北の国・森林づくり技術交流発表会」に出席して、自然再生と森林環境教育について2課題発表

2月2日 センター広報紙「インフォメーション」第24号の発行

2月5日 くしろエコ・フェア2009実行委員会の打合せ出席

2月3～2月24日 野生動物自動撮影の実施

2月5日 根釧西部署との合同で「20年度第3回国有林四季体験ツアー」を開催

2月15日 鶴居村タンチョウウフェスタに自然再生と森林環境教育への取組パネル展示

3月4,5日 局主催のCMS操作説明会出席

3月18日 釧路支庁主催「みどりの環境づくり地域会議」出席

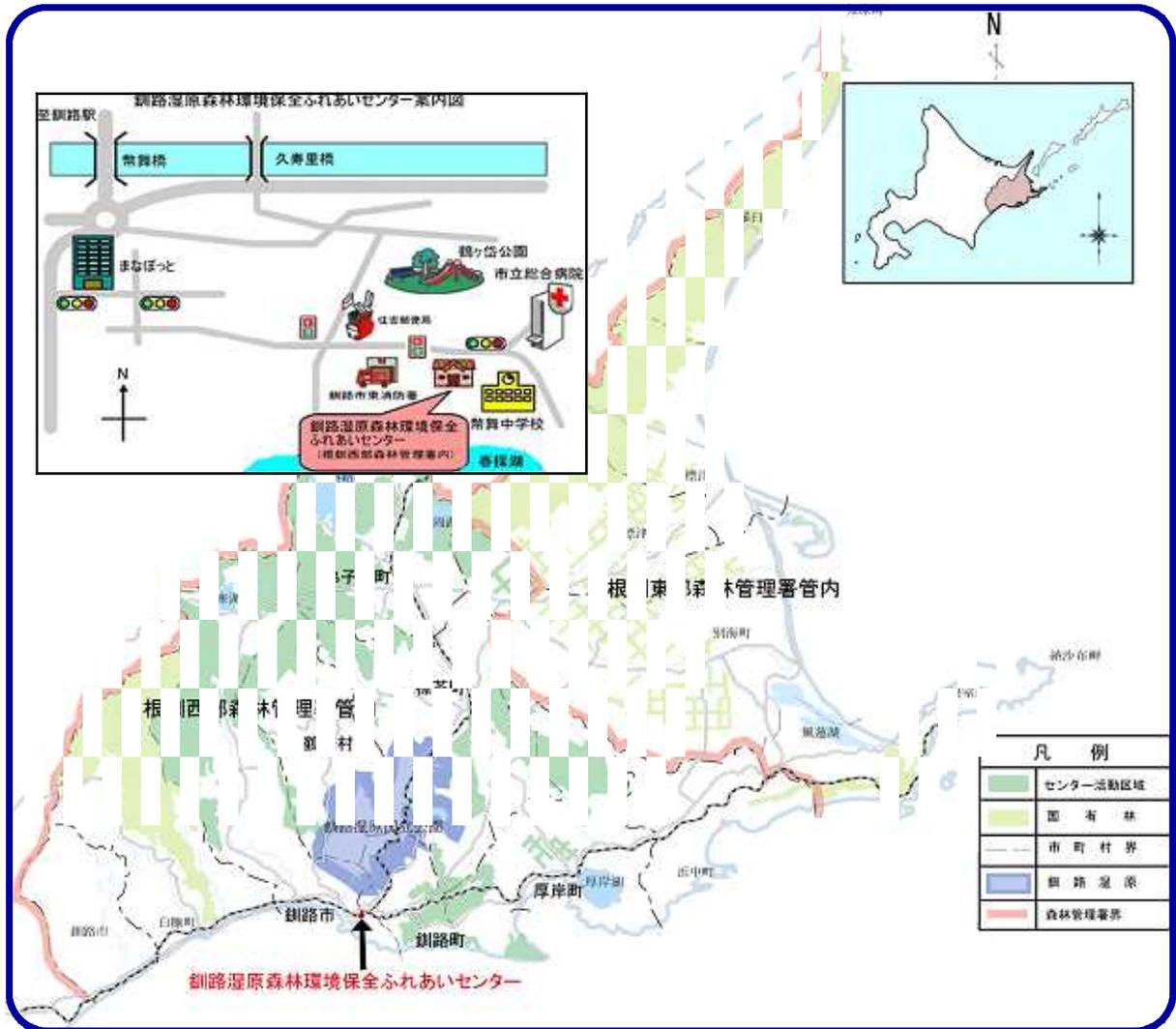


当センターからは21年度の主な取組内容説明と「自動撮影装置による動物生息調査」についてスライドを用いながら話題提供しました。

3月19日 センター広報紙「インフォメーション」第25号の発行

3月24日 根釧西部森林管理署・釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター新庁舎落成式

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターの主な活動区域



林 野 庁

北海道森林管理局

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

連絡先：〒085-0825

北海道釧路市千歳町 6-11

TEL：050-3160-5787, 0154-44-0533

FAX：0154-41-7305

e-mail：h_kushiro_f@rinya.maff.go.jp

HP（ホームページ）：<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp>